

さいとう きしお
齊藤 喜志雄 議員

町内公・私立2校の存続と支援を

道教委は「新たな高校教育に関する指針」(H18年度策定)に基づき、「公立高等学校配置計画案」を「地域別検討協議会」で示し、収容定員の調整や再編を進めている。

この新指針では、「1学年3学級以下の学校は原則再編(統廃合)する。」としている。従って、幕別高校もその対象校(全道84校)にひとつになっていることは言うまでもありません。

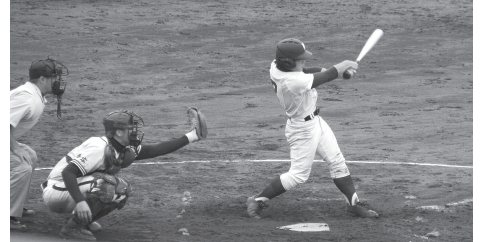
これまで、地元の高校を存続・充実・発展させるため、補助金等を措置してきているが、新たな事態を迎え、更なる支援や取り組みが必要と考える。

以下、3点お伺いする。

- ①09年度の、町内中卒者の進路動向と公立高の授業料無償化に伴う影響について。
- ②新しい指針をどのような受け止めているか。
また、幕別高校の存続を願う生徒や保護者など、地元の思いや願いに応える支援策の強化について。
- ③中卒者が激減する中、私立高校の経営努力には限界があるもと考える。
地元自治体として、人材育成などで貢献度の高い江陵高校への支援体制の強化について。



復活を遂げた幕別高校野球部!



町長

①今春の町内中学校の卒業生の進路について、卒業生は合計309人で、進路未定の1人を除くと308人が高校等へ進学している。その内、幕別高校は前年度より7人増の32人、江陵高校は10人減の46人進学している。

授業料の無償化により、私立校関係者からは、少子化や不況に加え本制度の実施によって入学者が減少したとの話もあり、江陵高校でも入学者が前年度より減少していることの一因になっていると推測される。また、従来の授業料減免世帯の把握ができなくなり、PTA会費などの各種負担金について減免が廃止され、実質負担増となった世帯が出てきている。

②中学校卒業生数が大幅に減少を続けている中で、高等学校の教育水準を維持向上させていくためには、公立高校の再編は避けて通れないものと理解している。幕別高校が果たしてきた役割、今後も地域の子供たちの学びやとして、十勝東部1校の普通科高校として、存続・発展していくためにも、再編整備の対象としてはならないものと強く認識している。

平成21年度から幕別高等学校教育振興会への補助を拡充し、生徒



平成22年度理事長杯で十勝初優勝を果たした江陵高校女子バレー部

の体験活動や進路対策、地域との連携教育活動の充実などの支援や、海外研修への派遣、インターン研修の受け入れや学校行事への福祉バスの運行など、活動の充実に努めているが、今後も教育委員会との連携を密にし、ソフト面での一層の充実にも努めていきたい。

③江陵高校に対しては、毎年190万円の運営費補助を行っている。教育活動を高く評価するとともに、町内中学生の進学先としての重要性などを考慮し、当面、現在の金額で支援を続けていくことが必要であると認識している。

今後については、幕別高校と同様にソフト面でのさらなる支援を検討していきたい。